

I 実践

1 研究主題

生徒の人権感覚や人権意識を育成するための教育活動の充実と人権教育推進計画の工夫・改善

(1) 主題設定の理由

人権の基本にあるのは、一人一人の人間の尊厳である。そのため、「茨城県人権施策推進基本計画」に基づき、「教育活動全体を通して人権尊重の精神を養うとともに、差別や偏見をもたない児童生徒の育成」を目指している。そのための課題の一つが、「人権問題の理解については知識理解を中心とした学習であったことから児童生徒に人権感覚が十分身についていないこと」である。そこで、教科や領域での教育活動全体で体験的な活動や話し合い活動を通して理解を深めることができれば、一人一人の人権に対する意識を高めることができると考えた。

(2) 研究のねらい

各教科、道徳、特別活動等の学校生活全体を通して、人権教育の充実を図り、人権尊重の精神の育成を目指す。

2 実践内容

(1) 道徳の時間における「いじめ」に関する授業（第2学年）『許せない，だから…』

ア 「一通のメール」の資料を読んで話し合う。（資料は茨城県教育委員会 HP より）

イ 話し合いを通して、「携帯電話の使用における情報モラルや、相手の気持ちを考えながら行動すること」について考える。

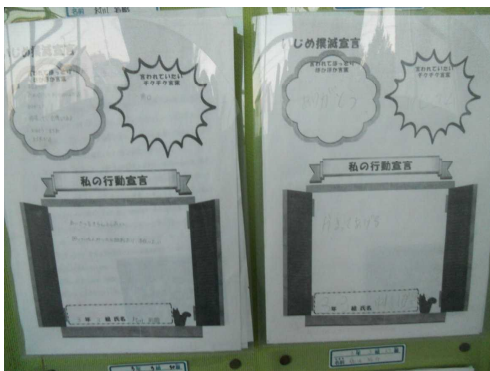
○生徒が登場人物である「みどり」に対してあてた手紙から

みどりの気持ちはよく分かるよ。きっと、「絵莉子とは友達だと思ってたのに…。」って、悔しかったんじゃないかな。でもね、本当にそうなのかな？健介はメールで「悪口を言ってた」って書いているけど、そうだったのかな？直接聞いてみないと、分からないことってあると思うよ。今度、会って、話してみなよ。

みどりは、絵莉子に悪口を言われた、って落ち込んだよね。けど、それを周りに言いふらして、皆で無視しちゃダメだよ。それじゃ、自分も悪いことしてるじゃん。みどりは、今まで絵莉子のそばにいたことが多かったんでしょ？そしたら、きっと、絵莉子のいいところ、いっぱい知ってるはずだよ。まずは謝って、やり直せばいいんじゃないかな。

(2) 学校全体としての取り組み ～「いじめ撲滅運動」～

ア 道徳の時間を活用し、全クラスで「チクチク言葉」「ほかほか言葉」について考える。



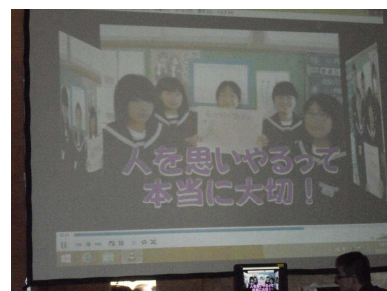
イ 全クラスで「いじめ撲滅」のための標語を考え、黒潮祭の中で各クラスの「いじめ撲滅宣言」を発表する。



【各クラスで決めた撲滅宣言】



【学級掲示の様子】



【黒潮祭で発表】

ウ 人権メッセージの作成に全校生徒で取り組み、各クラスで話し合って代表の作品を選ぶ。その後、全校の中から優秀作品を選定し、学校内に掲示する。(1月実施予定)

エ 地域との交流

久慈中生としての活動を行うことにより、集団の一員として役割を果たしたり、自覚をもって行動したりすることができる。



【小中学校あいさつ運動】



【リサイクル活動】



【福祉のつどいに参加】

3 成果

- ・道徳や学級活動の時間では、学年や学級の実態に応じて、タイムリーな新聞記事やニュース等から人権教育の教材を見つけ、工夫した授業展開をする取り組みが多く見られる。
- ・全校生徒で行った「いじめ撲滅運動」によって、ひとりひとりの違いや個性を認め、尊重する意識、困っている友達がいたら助けてあげようとする心、いじめという行為を見過ごさない・許さないといった雰囲気が出来てきた。また、それを黒潮祭で発表することによって、学校全体として「いじめを許さない」という意識を共有することができた。
- ・各学年で行われている体験活動の中で、生徒が自主的に企画・準備・運営を行ったことで、お互いの個性を認め、協力し、友情を深めようとする態度が身についてきた。
- ・ボランティアの大切さに気づき、行動につながってきた。全校生徒で行う「リサイクル活動」・「あいさつ運動」・「福祉のつどい」に積極的に参加するなど、活動の輪が広がってきた。

II 今後の課題

各教科や道徳、総合的な学習の時間・学校行事など教育活動全体の中で、人権に対する取り組みをさらに充実させ、生徒一人一人の人権感覚や人権意識を高めていきたい。また、校内研修の充実を図り、教職員の人権に対する知識や理解を高めていくことも大切である。さらに、本校の取り組みを、地域に積極的に広報し、連携しながら活動を行うことができるようにしていきたい。